
第3編 地区別アクションプラン

第1章 松田地区アクションプラン

1. 松田地区の現状と課題

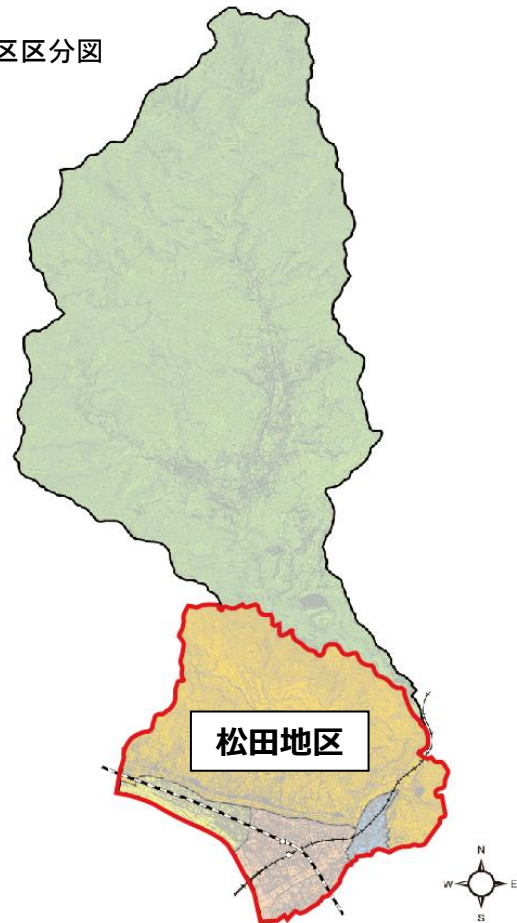
(1) 地区の概況

松田地区は本町の南部に位置しており、松田駅や新松田駅を中心に本町の中心的な市街地と周辺の住宅地で形成された地区とその北側には松田山の自然環境豊かな丘陵地が広がる地区です。面積は1083.1haで、町域の28.7%を占めています。

市街地は、町役場をはじめとする公共公益施設や医療施設、商業・業務施設が集積するなど、町民生活の中心的な役割を果たす地区となっています。

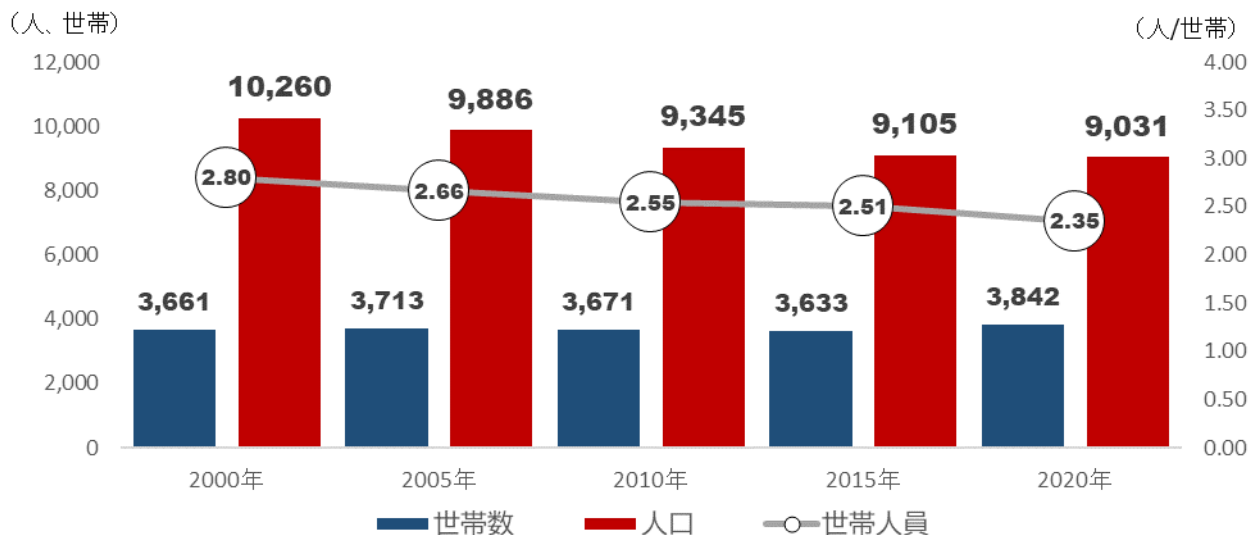


■地区区分図



松田地区の人口は2020年で9,031人と、町全体の約83%を占めています。2000年からの推移を見ると、1,229人・12.0%の減少となります。世帯数は2020年で3,842世帯と増加傾向にあります。1世帯当たりの人員は年々減少しており、2020年で2.35人/世帯となっています。

■松田地区の人口・世帯の推移（国勢調査）



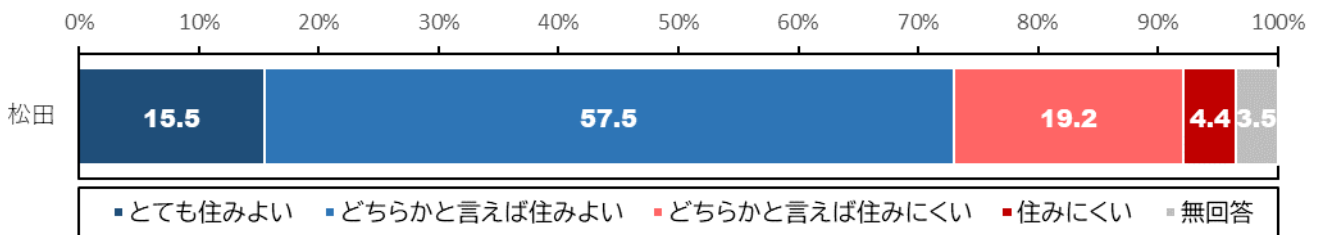
(2) 地区住民の意向

① 住みやすさ (松田地区)

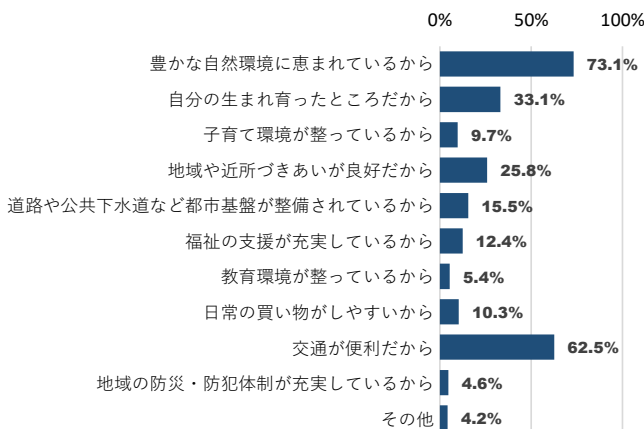
松田地区においては、73.0%が「とても住みよい」「どちらかと言えば住みよい」と回答しており、住みやすい理由は、豊かな自然環境と交通の便利さがあげられます。

一方で住みにくい理由は、町内での買い物やスーパー等の不足など、日常生活の不便さがあげられます。

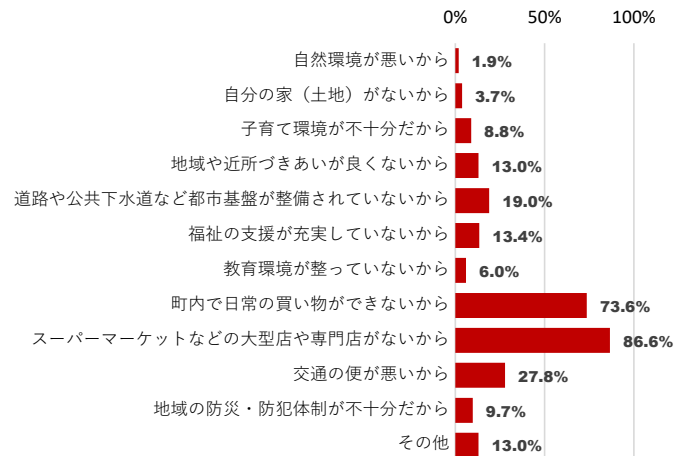
■松田地区の住みやすさ



■松田地区の住みよい理由



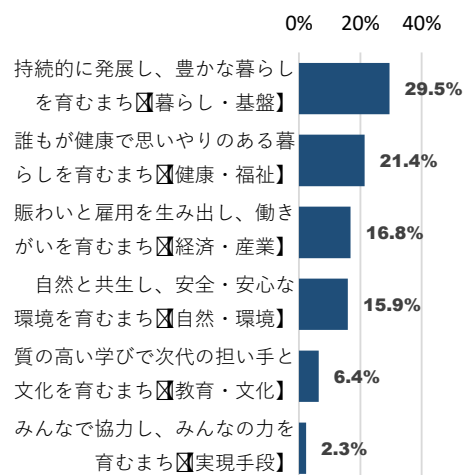
■松田地区の住みにくい理由



② 力を入れるべきまちづくりの取組 (松田地区)

力を入れるべきまちづくりの取組について、松田地区では、「暮らし・基盤」が29.5%と最も多く、良好な市街地や住宅地の形成が求められています。

■力を入れるべきまちづくりの取組

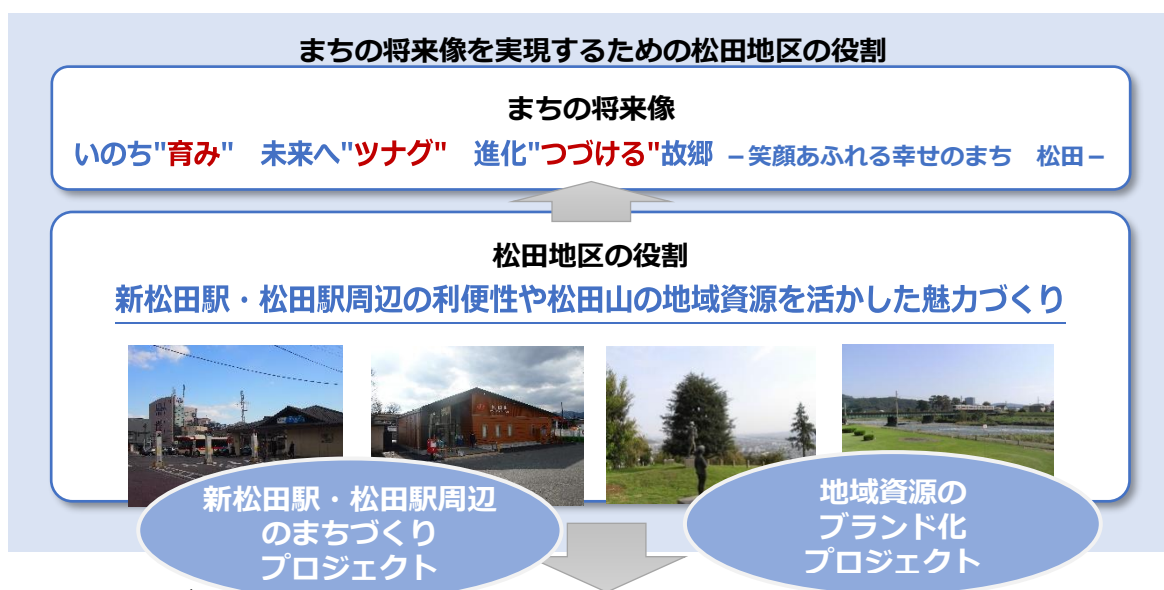


2. 松田地区のまちづくりの方向性と取組

(1) まちづくりの方向性

松田地区においては、まちの将来像「いのち“育み” 未来へ“ツナグ” 進化“つづける”故郷」を実現するため、住みよさの資源である交通の利便性や豊かな自然環境を活かした魅力づくりに取り組みます。「新松田駅・松田駅周辺のまちづくりプロジェクト」「地域資源のブランド化プロジェクト」に位置づけた取組に重点的に取り組むとともに、その他の取組とも連携しながら、松田地区の魅力づくりに取り組みます。

■松田地区の役割とまちづくりの方向性



■取組の位置づけ

位置づけ	具体的な取組
新松田駅・松田駅周辺のまちづくりプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・新松田駅北口周辺整備の促進 ・効果的な交通施策の推進と新たな交通施策の推進 ・新松田駅南口駅前道路の整備 ・新松田駅南口駅前広場等整備 ・おもてなし・お休み処「つむGO」の利活用 ・路線バスの運行維持対策の推進 ・民間住宅の建設促進、良好な住宅地開発の誘導 ・生活環境を向上させる歩行空間の確保 ・新松田駅前等の基盤整備事業に伴う商店街の活性化についての支援 ・足柄上商工会、地元商店街と連携した消費拡大の促進 ・スーパー及びコンビニエンスストア誘致 ・店舗リノベーション支援補助制度の活用促進
地域資源のブランド化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・松田山の保全の推進 ・松田山の利活用の推進 ・新たな観光資源の創造・発掘・活用 ・西平畑公園及び松田山ハーブガーデン活用促進 ・コスモス館等での地元農産物の消費拡大の支援 ・民間の観光事業者との連携
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道事業の推進と経営基盤の強化 ・広域的組織によるハイキングコース・遊歩道の整備・維持修繕 ・ふるさと鉄道活用促進 ・子どもの館及び自然館の利用促進 ・パークゴルフ場活用促進

(2) 取組方針図

※太字=まちづくり戦略プロジェクトに位置づけられた取組



第2章 寄地区アクションプラン

1. 寄地区の現状と課題

(1) 地区の概況

寄地区は、本町の北部に位置しており、丹沢山系の山々と点在する集落から成る地区です。面積は 2691.4ha で、町域の 71.3%を占めています。集落には自然景観と調和した落ち着いた街並みが形成されています。また、寄ロウバイ園や寄七つ星ドッグランなどの観光資源とともに、中津川沿いの桜並木や茶畑による美しい景観を有しています。



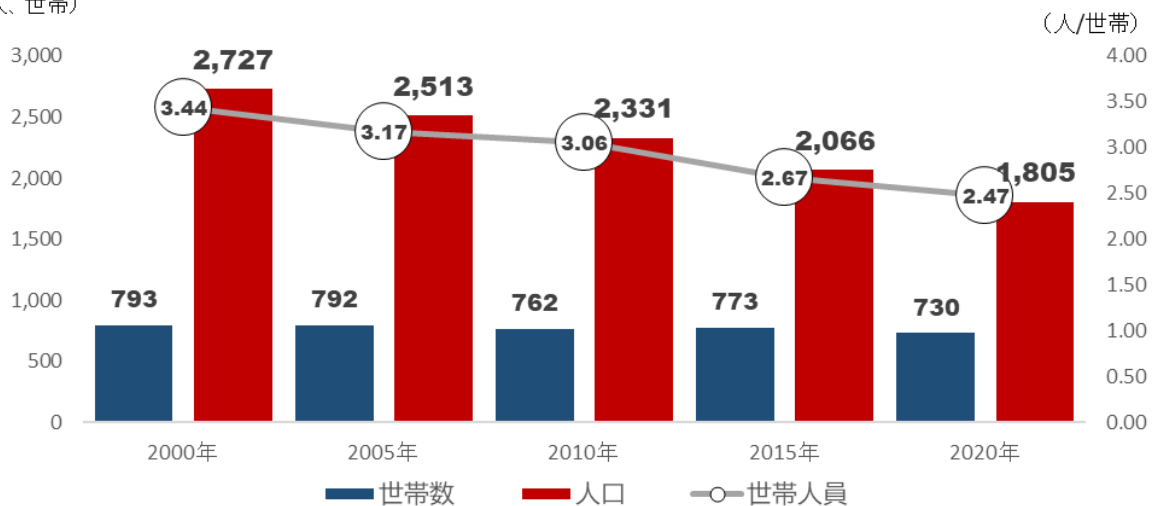
■地区区分図



寄地区の人口は 2020 年で 1,805 人と、町全体の約 17%となっています。人口減少が続いており、2000 年からの推移を見ると、922 人・33.8%の減少となっています。世帯数は、2020 年で 730 世帯となっており、減少傾向を示しています。1 世帯当たりの人員も減少傾向を示しており、2020 年で 2.47 人/世帯となっています。

■寄地区の人口・世帯の推移（国勢調査）

(人、世帯)

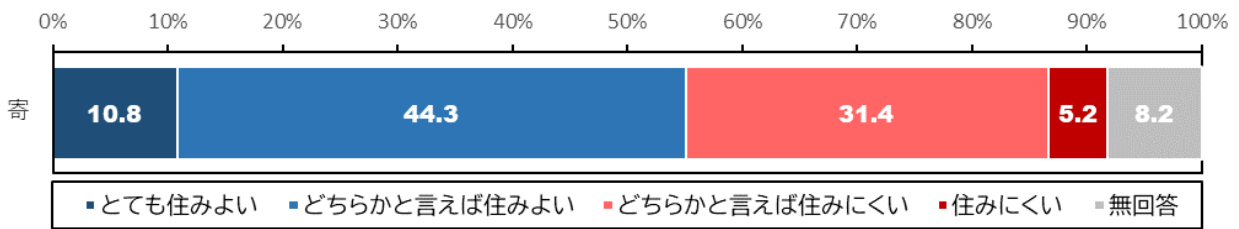


(2) 地区住民の意向

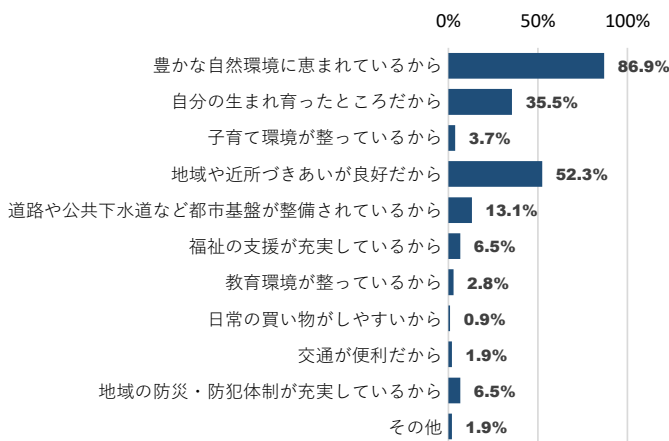
① 住みやすさ (寄地区)

寄地区においては、55.1%が「とても住みよい」「どちらかと言えば住みよい」と回答しており、「住みにくい」「どちらかと言えば住みにくい」は36.6%と、住みよい意向が高くなっています。住みやすい理由は、豊かな自然環境と近所づきあいがあげられ、一方で住みにくい理由は、交通の不便さや町内での買い物、スーパー等の不足など、日常生活の不便さがあげられます。

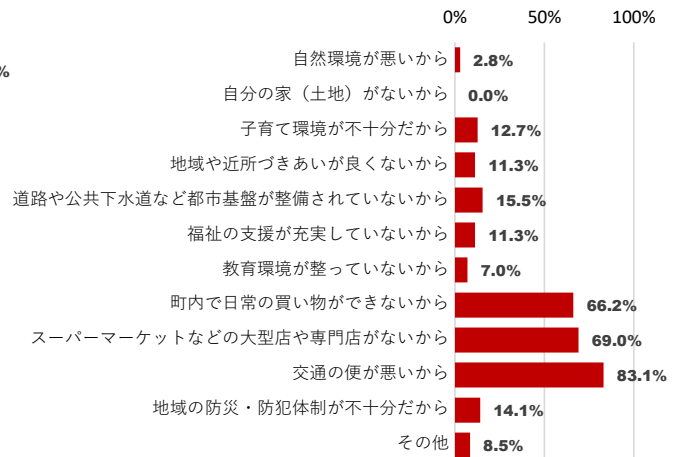
■ 寄地区の住みやすさ



■ 寄地区の住みよい理由



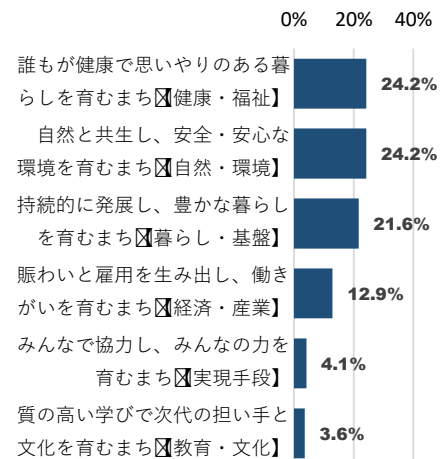
■ 寄地区の住みにくい理由



② 力を入れるべきまちづくりの取組 (寄地区)

力を入れるべきまちづくりの取組について、寄地区では、「健康・福祉」と「自然・環境」がともに24.2%と最も多く、松田地区と比較すると、この2つの項目の回答割合が高くなっています。

■ 力を入れるべきまちづくりの取組



2. 寄地区のまちづくりの方向性と取組

(1) まちづくりの方向性

寄地区においては、まちの将来像「いのち“育み” 未来へ“ツナグ” 進化“つづける”故郷」を実現するため、住みよさの資源である豊かな自然環境や地区の交流を活かした魅力づくりに取り組みます。「地域資源のブランド化プロジェクト」に位置づけた取組に重点的に取り組むとともに、その他の取組とも連携しながら、寄地区の魅力づくりに取り組みます。

■寄地区の役割とまちづくりの方向性



■取組の位置づけ

位置づけ	具体的な取組
地域資源の ブランド化 プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツツーリズムの推進 ・農泊や体験事業の推進 ・寄七つ星ドッグラン&カフェ（ふれあい農林体験施設）の活用推進 ・寄口ウバイ園の活用推進 ・森林資源の活用 ・木質バイオマス事業化の推進
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・森林整備の推進 ・移動販売業者への経営支援 ・広域的組織によるハイキングコース・遊歩道の整備・維持修繕 ・旧安藤邸の活用促進 ・管理センター等の活用推進 ・町有地等の利活用の促進 ・合併処理浄化槽整備の推進 ・効果的な交通施策の推進と新たな交通施策の推進

